別記第８号様式（第１４条関係）

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区木場5-6-30
施設名	Learning Tree International School

1　活動のテーマ

〈テーマ〉

鴨川自然キャンプ

〈テーマの設定理由〉

本園では、毎年鴨川自然キャンプを実施しており、子どもたちが都会の生活環境から離れ、豊かな自然の中で過ごすことで、物がなくても心が満たされる楽しさや、田舎ならではの豊かさを感じてほしいと考えています。自然の中での挑戦や体験を通し、心の豊かさや芯の強さを育むことを目的として、このテーマを設定しました。
また、本園はこれまで自然体験活動に力を入れており、その保育環境と経験を生かすことで、子どもたちが安全に、そして思い切り自然と関われる活動環境を整えています。

2　活動スケジュール

①木場キャンパス前の木場公園集合 / 出発会
②鴨川到着 / 安全サークルタイム（安全についてのルールを守るお約束）
③ランチ
④森で遊ぶ（ターザンブランコ、トゥリーハウス、ジップライン等）
竹藪や野道の探検をして様々な動植物を探求する。また、地域の人々に話を聞く。
森や草っぱらで遊ぶ

帰途へ

⑤ 木場公園にて保護者様への到着報告会

3　活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

・バス２台、ガソリン代
・キャンプ場近隣農家への謝礼
・アルコールスプレー、木工用ボンド、クラフトペーパーなど

4　探究活動の実践

〈活動の内容〉

・森の遊び体験：ターザンブランコ、トゥリーハウスなど、自然を生かした遊具を使いながら、身体を大きく動かして遊ぶ体験を行います。木々に囲まれた環境の中で、バランス感覚・全身運動・挑戦する気持ちを育みます。
・草原での運動あそび・チーム活動：広い草っぱらを活用し、チームに分かれてサックレースやサッカーなどの運動遊びに取り組みます。汗をかいて思い切り走り回るとともに、協力する楽しさや仲間意識を育てます。
・自然探索・フィールドワーク：森の中の生き物や植物に目を向け、自然ならではの発見を楽しむ時間も設けます。五感を使った体験を通して、自然への興味関心を深めます。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

子どもたちは自然の中でのびのびと身体を動かし、笑顔いっぱいで遊びを楽しんでいました。遊具では「もう一回やりたい！」という声も多く聞こえ、友達を応援し合う姿も見られました。草原での運動あそびでは、友達同士で声を掛け合いながら、友達と一緒に身体を動かす楽しさを味わっていました。
自然探索では、「これなに？」「虫がいた！」と次々に発見を伝え合い、友達や保育者とのやりとりを楽しみながら自然への興味を深めていました。五感を使って自然に触れる中で、好奇心や思いやり、挑戦する気持ちが育まれていました。







5　振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

今回の活動を通して、初めは「怖い」「できない」と話していた子も、挑戦した後には自信に満ちた表情を見せていて、たった1日の経験の中でも子どもたちは大きく成長できるのだと改めて感じました。
また、子どもたち同士で自然に応援し合う姿が多く見られ、自然の中での体験が協調性や思いやりを育む貴重な機会にもなっていると感じました。
自然探索では、一人ひとりの気づきや発見がとても豊かで、保育者の問いかけによって興味や関心がさらに広がっていく様子が印象的でした。子どもたちの「気づく力」を大切にしながら、今後も主体性や探究心を深められる環境づくりを行っていきたいと感じました。

別記第８号様式（第１４条関係）

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区木場5-6-30
施設名	Learning Tree International School

１　活動のテーマ

〈テーマ〉

音楽に親しみ、楽しむ

〈テーマの設定理由〉

音楽教育は、歌やダンスを楽しむことにとどまらず、数学的思考力、記憶力、読解力、知能、社会性などの向上に大きく寄与すると多くの研究で示されています。
このクラスでは、多様な音楽や楽器に触れ、参加できる活動を通して、さまざまな形で「音楽」に親しみます。授業内で行う音楽のクラスだけにとどまらず、普段の生活の中で触れる機会の少ない楽器と音にも触れ、子ども達の音楽の世界を広げてほしいという思いから、本テーマを設定しました。

２　活動スケジュール

① 全生徒参加のイベント、カルチャーデー(文化の日）にて音楽は、人と人とを時代や場所を超えて結びつける「人類共通の言葉」として、文化の力強い表現のひとつであることをこども達に紹介。
②ハープ製作所からコンサート・グランドハープを借り、プロのハーピストである教師によるライブ演奏を行い、こども達にグランドハープの音色を聞いてもらう。
③ 実際にこども達にグランドハープを奏でてもらう。
④ その後、クラス内でイベントや体験について子ども達の感想や意見を聞き、より理解を深めていく。

３　活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

コンサート・グランドハープを借りる。多くのこども達に体感してもらえるよう、キャンパスのシアターにこども達用の座席を準備した。

4　探究活動の実践

〈活動の内容〉

こども達にステージ上に一人ひとりあがってもらい、ハープの弦に触れて音を奏でてもらった。弦によって異なる音がでることや、弦の弾き方によって異なる音色が奏でられることをこども達に体感してもらった。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

自分の身体の何倍もの大きさのあるグランドハープを見ることが初めての生徒がほとんどで、目を輝かせていました。このグランドハープには何本の弦があるだろう？という質問に、こども達は楽しいそうに答えてくれていました。47本、と本数を知った時には皆驚いている様子だった。また、初めて触る大きな楽器に、ためらう様子なく興味津々な様子で奏でてくれました。





5　振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

普段の生活の中ではあまり見たり触れたりすることがない楽器や音色に触れる経験をこども達に提供できたことがよかった。複数用意できる楽器ではないので、こども達全員が待ち時間少なく効率良く体験できるようにスケジュールを組んでいたが、より考慮する必要がある。